

この本 読んで

～4・5歳からのおすすめ絵本～



宇陀市立図書館

協力：榛原本を楽しむ会 / NPO 法人わくわくスタディーひろば /
大宇陀おはなし会 / おはなし玉手箱 / お話おじさん

絵本の世界を楽しもう

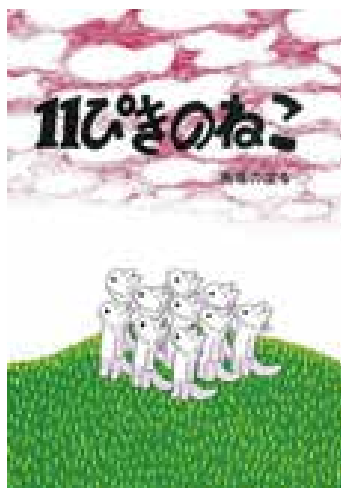
4～5歳の子どもは、社会生活や友達関係が築かれ、生活体験から離れたことにも興味関心が広がります。

また、自分の好みがはっきりして、好きな絵本を楽しむようになります。主人公と一緒にドキドキしたり、笑ったり、悲しくなったり…。

いろいろな「きもち」と出合える絵本や少し長めの絵本にもチャレンジしてみてもいいかなのでしょうか。

さあ、楽しいことや知らないことがいっぱいあった絵本の世界を楽しみましょう。





『11匹きのねこ』

絵：馬場のぼる
出版社：こぐま社

とらねこ大将と10匹きの仲間の愉快的冒険物語。腹ぺこのねこたちは湖にやってきました。大格闘の末、やっと大きな魚を生け捕ります。「みんなに見せるまでは食べない」と約束したのに…。あっと驚くどんでん返しが大人気。



『おおかみと七ひきのこやぎ』

作：グリム 絵：フェリクス・ホフマン
訳：瀬田 貞二
出版社：福音館書店

「おおかみを家に入れないうち注意しなさい。」お母さんやぎは子やぎたちにそう言って森に食べものを探しに出かけます。子やぎたちは、おおかみの「しわがれ声」や「黒い足」をしっかりと見ぬいて、おおかみを追い払うのですが…。



『おおきなおおきな おいも』

原案：市村 久子 作・絵：赤羽 末吉
出版社：福音館書店

楽しみにしていたいもほり遠足の日、雨が降ってしまいました。残念がる子どもたちは大きな紙においもを描きはじめます。紙をつなげてつなげて、絵はどんどん大きくなります。大きなおいもをめぐる子どもたちの空想がつまったお話です。



『おいしいのぼうけん』

作：ふるたたるひ たばたせいいち

出版社：童心社

さくらほいくえんには、こわいものが二つあります。一つはおしいれで、もう一つはねずみばあさんです。お昼寝前にけんかをしたさととあきは、先生に叱られておしいれに入れられてしまいます。そこで出会ったのはなんと…。



『おふろだいすき』

作：松岡 享子 絵：林 明子

出版社：福音館書店

お風呂が大好きなぼくが、あひるのプッカをつれてお風呂に入ると、かめやペンギン、オットセイやくじらまで登場し、子どもの空想が広がります。あたたかいおかあさんのタオルが終着点となり、おふろが待ち遠しくなるお話です。

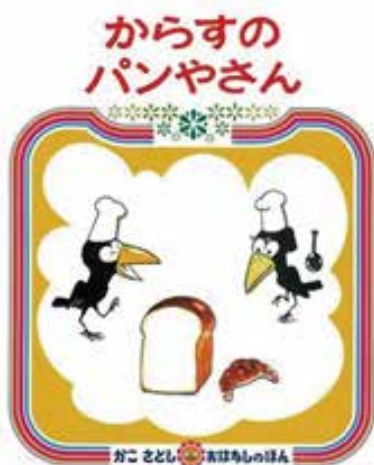


『かさじぞう』

再話：せたていじ 絵：赤羽 末吉

出版社：福音館書店

正月の餅を買うために、笠を売りに町に出かけたじいさんですが、笠は売れません。雪も降りだし、家に帰ろうとすると、途中で雪をかぶったお地蔵さまたちに出会います。売れ残った笠をお地蔵さまたちにかぶせてあげると、その夜…。



『からすのパンやさん』

作：かこさとし

出版社：偕成社

いずみがもりの「からすのパンやさん」に四羽のあかちゃんが生まれました。オモチちゃん、レモンちゃん、リンゴちゃんにチョコちゃんです。子どもたちのアイデアで焼きあがったすてきなパンがいっぱい。その楽しいことといったら…。



『キャベツくん』

文・絵：長新太

出版社：文研出版

キャベツくんと出会ったブタヤマさんはおなかペコペコ。「おまえを食べる！」というブタヤマさんと、「ぼくをたべたらこうなる！」というキャベツくんのゆかいなやりとりが楽しい絵本です。



『ぐるんぱのようちえん』

作：西内ミナミ 絵：堀内誠一

出版社：福音館書店

ぐるんぱは大きなぞう。ビスケット屋、靴屋、ピアノ工場、自動車工場と色々なところで働きますが、作るものが大きすぎて失敗ばかり。そんな時、子どもたちの世話を頼まれたぐるんぱは、とても素敵な物を作り、子どもたちを喜ばせます。



『三びきのやぎのがらがらどん』

ノルウェーの昔話

絵：マーシャ・ブラウン 訳：瀬田 貞二

出版社：福音館書店

三びきのやぎ、名前はどれも「がらがらどん」。山へ行く途中、小さなやぎから順番に橋を渡ることになりました。ところが、橋の下には恐ろしいトロルが！「ひとのみにしてやろう」とおそいかかるトロルを前にした3びきは…？！



『しずくのぼろけん』

作：マリア・テルリコフスカ

絵：ボフダン・ブテンコ 訳：内田 莉莎子

出版社：福音館書店

バケツから飛び出して旅に出た水のひとしずく。ところが、どこへ行ってもほこりがいっぱい。きれい好きのしずくはクリーニング屋さんやお医者さんにきれいにしてもらおうと思うのですが…。しずくの旅はどうなるのでしょうか。



『すてきな三にんぐみ』

作：トミー・アンゲラー 訳：今江 祥智

出版社：偕成社

黒いマントに、黒い帽子、見えているのはギョロリと光る目玉だけ。抱えているのは真っ赤なおおまさかり。お宝集めに夢中の怪しい三人ぐみの大盗賊でしたが、ひょんなことから、すてきな三人ぐみに…。

そらいろのたね



『そらいろのたね』

作：中川 李枝子 絵：大村 百合子

出版社：福音館書店

ゆうじの模型飛行機ときつねの「そらいろのたね」を交換することになりました。ゆうじがそのたねを植えて水をやると、そら色の家が生えてきて、みるみる大きくなり、みんなの楽しい遊び場になります。そこにきつねがやってきて…。

シリーズ



『そらまめくんのベッド』

作・絵：なかやみわ

出版社：福音館書店

そらまめくんの宝物は、雲のようにふわふわで、綿のようにやわらかいベッド。グリーンピースの兄弟たちが「そのベッドで眠ってみたいなあ」と言いますが、誰にも使わせようとしません。そんな大事なベッドがなくなってしまい…。

シリーズ

どろんこハリー



ジーン・ジオン ぶん
マーガレット・ブロイ・グレアム え
わたなべ しげお やく

『どろんこハリー』

作：ジーン・ジオン

絵：マーガレット・ブロイ・グレアム

訳：わたなべしげお 出版社：福音館書店

ハリーは黒いぶちのある白い犬。お風呂に入ることが大嫌いです。お風呂のお湯の音を聞いたハリーは外へ逃げ出します。泥だらけの姿で帰ってきたハリーですが、誰もハリーだと分かってくれません。



『はじめてのおつかい』

作：筒井 頼子 絵：林 明子

出版社：福音館書店

みいちゃんはママに頼まれて牛乳を買いに出かけます。一人で歩く道は、緊張の連続です。お店の前で「牛乳ください」と言っても、声が小さくてお店の人は気づきません。初めておつかいをする子ども心が鮮やかに描かれた絵本です。



『めっきらもっきらどおんどん』

作：長谷川 摂子 絵：ふりや なな

出版社：福音館書店

かんたがお宮の木の根っこの穴からすいこまれた所は、不思議な国でした。そこで暮らすへんてこな三人組と仲良くなり、時間を忘れて遊んでいるとすでに夜。心細くなったかんたが「おかあさん」と一声叫んだとたん…。



『100 まんびきのねこ』

作・絵：ワンダ・ガアグ 訳：石井 桃子

出版社：福音館書店

おじいさんとおばあさんは、寂しいので猫を飼うことに決めました。猫を探しに出かけたおじいさんは、猫であふれた丘にたどり着きます。(さて、どの猫にしようか) なんとおじいさんは、それを猫たちに決めさせようとしますが…。

シリーズ



『100階建てのいえ』

作：いわいとしお

出版社：偕成社

100階建ての家の最上階に住む誰かから、「遊びに来てね」と手紙をもらったトチくん。地図を見ながら歩いていくと、高い建物が現れました。上の方はかすんでよく見えません。いろんな動物が住む100階建ての家の探検がはじまります。



『あさえとちいさいもうと』

作：筒井 頼子 絵：林 明子

出版社：福音館書店

母さんの留守に妹のあやちゃんと家の前で遊んでいたあさえは、妹を喜ばせようと夢中で道にお絵かきをしていました。ところが気が付くと妹の姿がありません。懸命に妹を探すあさえのあせる気持ちが伝わってきます。

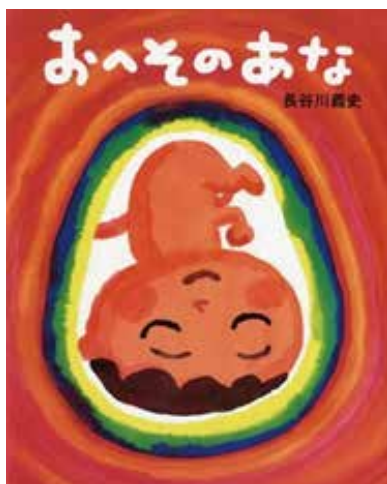


『王さまと九人のきょうだい』

中国の民話 訳：君島 久子

絵：赤羽 未吉 出版社：岩波書店

子どものいないおじいさんとおばあさんに、9人の赤んぼうが生まれました。9人の兄弟が成長した頃、王さまの宮殿で、大事な柱が倒れてしまいました。そこで王さまはあるお触れを出します。しかし、9人の兄弟の活躍で…。



『おへそのあな』

作：長谷川 義史

出版社：BL出版

「みえる、みえる。おにいちゃんがみえる。」
おへそのあなから外を覗いているのは、お母さんのお腹の中にいる赤ちゃん。そこから見える景色はさかさまです。命の誕生を楽しく描いた絵本です。



『おまえ うまそうだな』

シリーズ

作・絵：宮西 達也

出版社：ポプラ社

むかしむかし、山がドドド…と噴火して、その時生まれたアンキロサウルスの赤ちゃん。一人ぼっちで泣きながら歩いていると、大きなティラノサウルスが目の前に現れた。「おまえうまそうだな」と近づくティラノサウルスに…。



『こんとあき』

作：林 明子

出版社：福音館書店

あきが生まれた時からずっといっしょにいるぬいぐるみのこん。あきが大きくなるにつれ、ほころびはじめたこんを直してもらうために、あきとこんは二人で汽車に乗りおばあちゃんに会いに行くことに…。



『じごくのそうべえ』

作・絵：田島 征彦

出版社：童心社

「とざい、とうざい。かるわざしのそうべえ…」
軽妙な語り口調で始まります。綱わたりの綱
から落ちたそうべえ。気がつくと、そこは地
獄。ふんによう地獄に針の山…恐ろしい地獄
でそうべえはどうなってしまうのでしょうか？



『しりとりのだいすきなおうさま』

作：中村 翔子 絵：はたこうしろう

出版社：鈴木出版

なんでもしりとりの順に並んでいないと気が
すまない王さま。料理の順番もしりとり。
そして最後はプリンと決まっています。悪戦
苦闘する家来たちは、そんな王さまをこらし
めてやろうと、ある作戦を考えました。



『スイミー ~小さなかしこいさかなのはなし~』

作：レオ・レオニ 訳：谷川 俊太郎

出版社：好学社

広い海に、楽しく暮らす小さな赤い魚の兄弟
たち。そこに一匹だけ真っ黒な魚“スイミー”
がいました。ある日、大きなマグロに魚たち
は一匹残らず飲み込まれてしまいます。しか
し、スイミーの勇気と知恵が奇跡を起こしま
す。

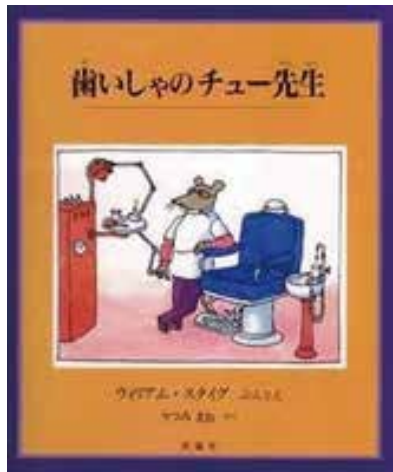


『ちいさいおうち』

作・絵：バーヂニア・リー・バートン 訳：石井 桃子

出版社：岩波書店

ちいさなおうちは、静かな田舎の丘の上で、美しい自然に囲まれてとても幸せでした。ところがある変化の時が訪れます。車が現れ、道路ができ建物が増え、静かだった町がにぎやかな町に変わっていくのです。



『歯いしゃのチュー先生』

作・絵：ウィリアム・スタイグ 訳：内海 まお

出版社：評論社

ネズミのチュー先生はうでききの歯医者さん。でも、危険な動物の治療はしません。そこへある日、キツネの紳士が、痛む歯を押さえて泣きながらやって来ました。かわいそうに思った先生は…。



『パパ、お月さまとって!』

作：エリック・カール 訳：もりひさし

出版社：偕成社

今夜はお月さまがとても近くに見えます。お月さまと遊びたくなったモニカは、手を伸ばすけれど、とても届きません。そこで、言うのです。「パパ、お月さまとって!」娘からこんなお願いをされたパパは、一体どうするのでしょう。



『ピーターのいす』

作・絵：エズラ・ジャック・キーツ 訳：木島 始

出版社：偕成社

ピーターが、積み木で遊んでいると、がしゃん！「しいーっ、うちには、うまれたてのあかちゃんがいるのよ。」とお母さん。ピーターのいすもベッドも妹のためにピンクにぬられていく。妹が生まれた上の子の葛藤を描いたお話です。



『ペレのあたらしいふく』

作・絵：エルサ・ベスコフ 訳：小野寺 百合子

出版社：福音館書店

子羊の世話をするペレも成長と同時に上着が短くなってきました。そこで彼は、羊の毛を刈り、その毛をすき、紡いでもらい、青色に染めます。多くの人に助けをもらい、自分だけの青い服を手に入れるまでの姿が生き生きと描かれています。

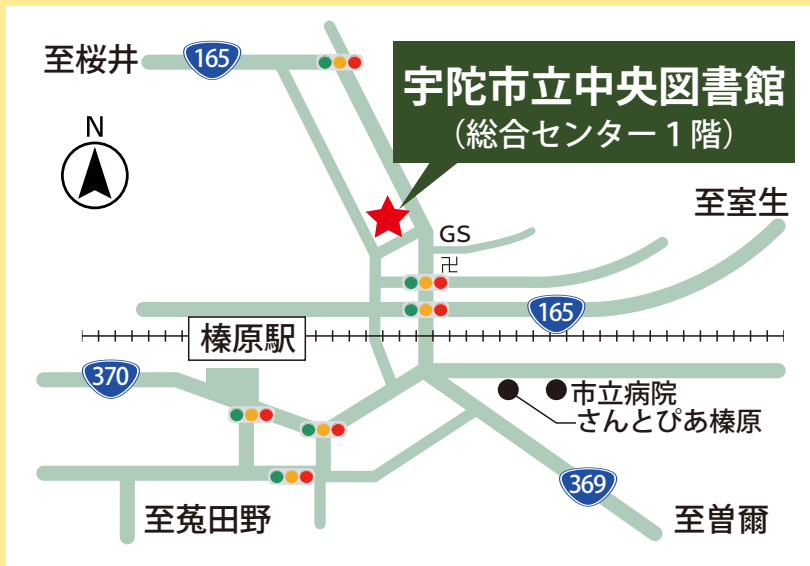


『モチモチの木』

作：斎藤 隆介 絵：滝平 二郎

出版社：岩崎書店

じさまと暮らす豆太は、5歳になっても夜中に一人でせっちゃんに行けません。せっちゃんは外にあり、そばには大きなモチモチの木が、空いっぱい枝を伸ばして立っていました。本当の勇気、優しさが、伝わってくるお話です。



宇陀市立中央図書館

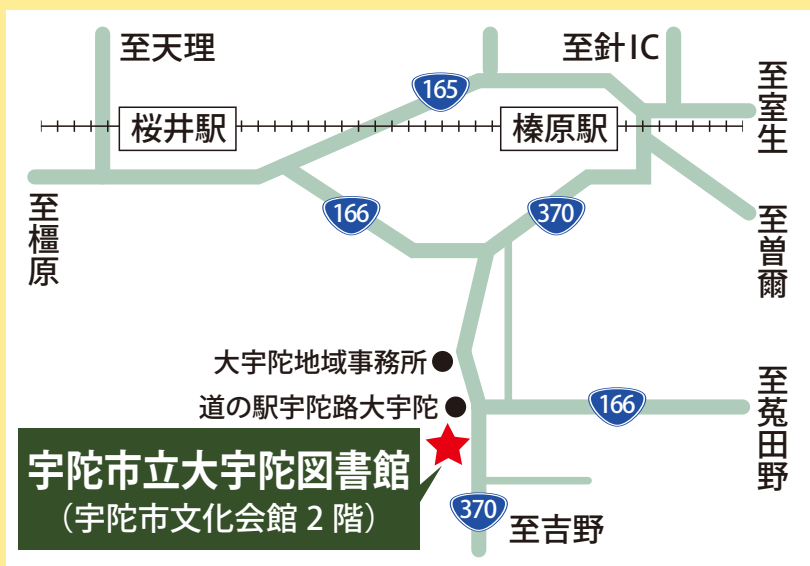
開館時間 9:30～17:00

休館日 火曜日・祝日(火曜日と重なった場合は翌水曜日も)
年末年始・特別整理期間

〒633-0253 宇陀市榛原萩原 2610-1

電話 0745-82-4749 / 0745-88-9110 [IP]

FAX 0745-82-4770



宇陀市立大宇陀図書館

開館時間 9:00～17:00

休館日 火曜日・祝日(火曜日と重なった場合は翌水曜日も)
年末年始・特別整理期間

〒633-2164 宇陀市大宇陀拾生 871

電話 0745-83-0976

FAX 0745-83-0976